

現在の利活用状況

- 特に四季の花々の時期の集客力が高い



佐倉チューリップフェスタ2025 (R7.4.10撮影)

- サイクリストの立ち寄り利用も多い



- 水辺を使ったイベントも多く行われている



印旛沼ダンボールイカダCUP (R6.8.25撮影)

- 新たな集客イベントの展開：現駐車場が活用されており、広いスペースが求められている



沼フェス～沼を遊ぶ一日～ (R7.5.24撮影)

- 水辺への絶好のアクセスポイントとなっている



沼フェス時のカヌーの様子 (R7.5.24撮影)

- パラカヌー体験の場としても活用されている



参考；<https://www.atpress.ne.jp/news/438919>

水草園との接合部で
水辺へアプローチしている

- 隣接する水草園におけるTEIREプロジェクト
(市民団体や学生等により、楽しみながらTEIRE（手入れ）をして水草再生を図る取組)



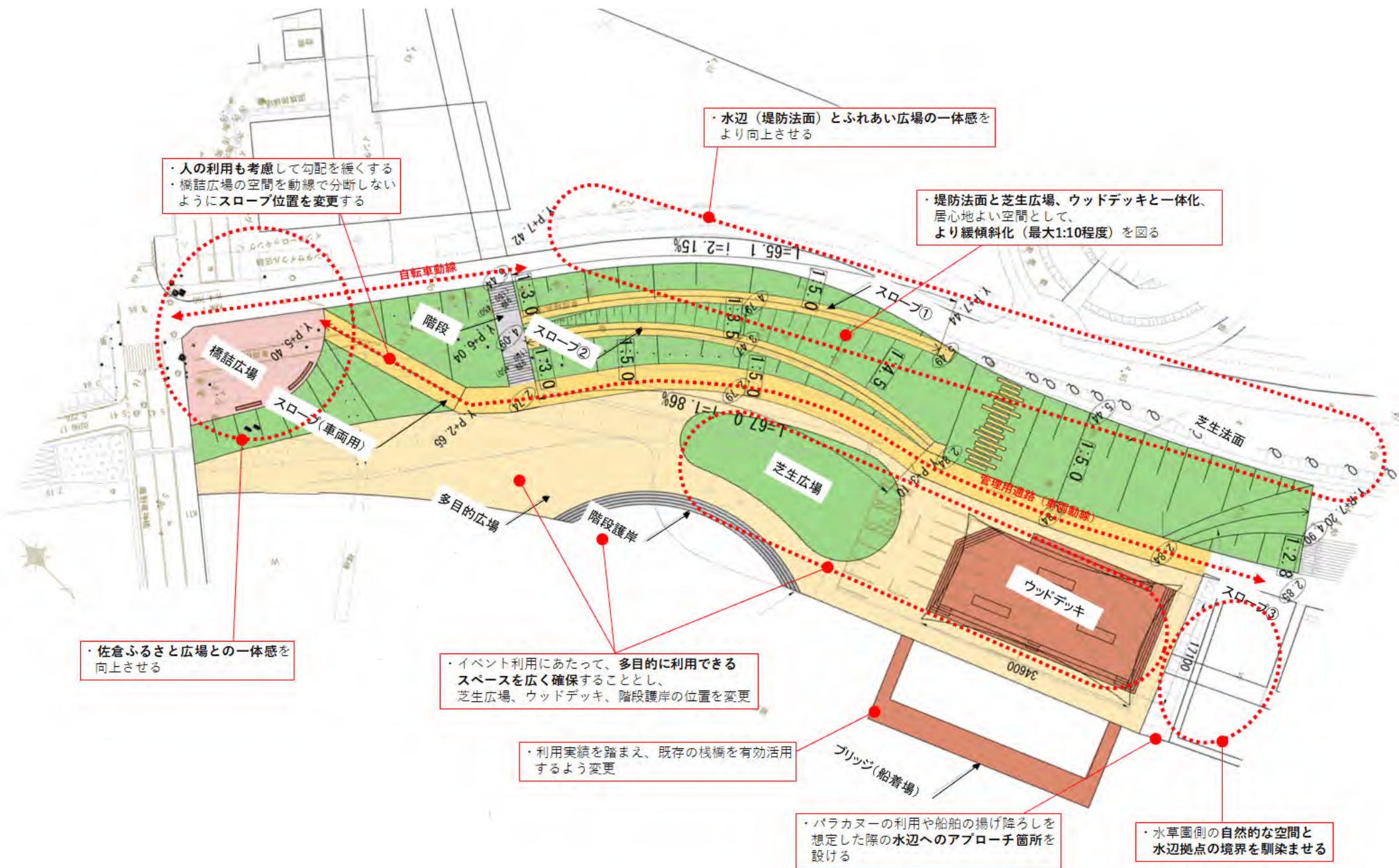
キックオフイベント (R7.5.24撮影)
ワークショップや水草園の手入れを実施。



千葉興業銀行によるTEIRE活動 (R7.9.27撮影)

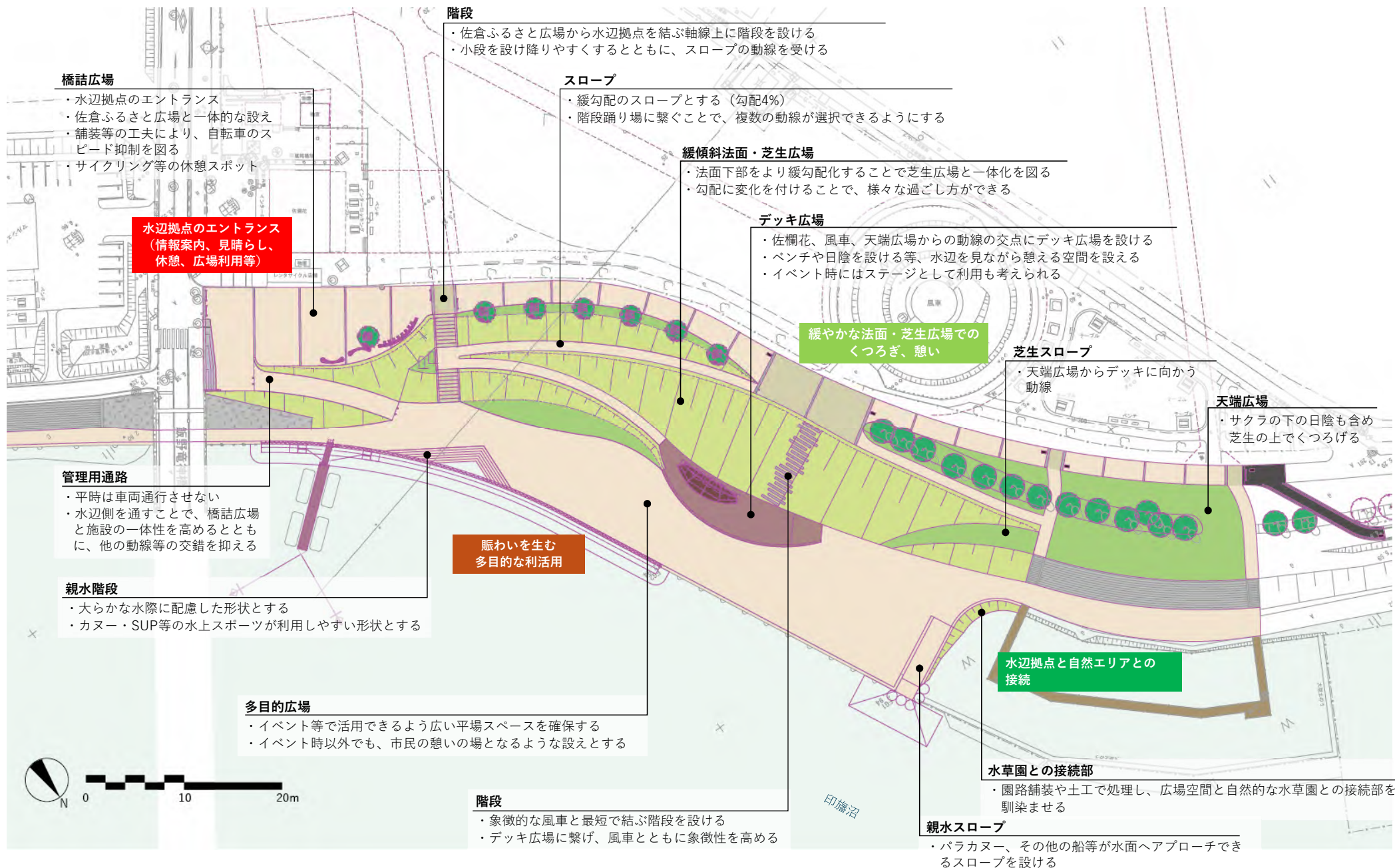
過年度検討からの変更ポイント

過年度の検討を踏まえて詳細に検討を行い、以下の赤枠ポイントについて変更した。（下図は、令和6年度計画図）



水辺拠点整備計画

- 印旛沼の広々とした水面や周辺の田園風景と調和
- 佐倉ふるさと広場との一体感、行き来しやすい動線
- イベントやアクティビティなどの利用や憩いの場としての機能
- シンプルで洗練された空間



橋詰広場

- ・水辺拠点のエントランス
- ・佐倉ふるさと広場と一体的な設え
- ・舗装等の工夫により、自転車のスピード抑制を図る
- ・サイクリング等の休憩スポット

水辺拠点のエントランス
(情報案内、見晴らし、
休憩、広場利用等)

管理用通路

- ・平時は車両通行させない
- ・水辺側を通すことで、橋詰広場と施設の一体性を高めるとともに、他の動線等の交錯を抑える

親水階段

- ・大らかな水際に配慮した形状とする
- ・カヌー・SUP等の水上スポーツが利用しやすい形状とする

多目的広場

- ・イベント等で活用できるよう広い平場スペースを確保する
- ・イベント時以外でも、市民の憩いの場となるような設えとする

階段

- ・佐倉ふるさと広場から水辺拠点を結ぶ軸線上に階段を設ける
- ・小段を設け降りやすくとともに、スロープの動線を受ける

スロープ

- ・緩勾配のスロープとする (勾配4%)
- ・階段降り場に繋ぐことで、複数の動線が選択できるようにする

緩傾斜法面・芝生広場

- ・法面下部をより緩勾配化することで芝生広場と一体化を図る
- ・勾配に変化を付けることで、様々な過ごし方ができる

デッキ広場

- ・佐欄花、風車、天端広場からの動線の交点にデッキ広場を設ける
- ・ベンチや日陰を設ける等、水辺を見ながら憩える空間を設える
- ・イベント時にはステージとして利用も考えられる

緩やかな法面・芝生広場でのくつろぎ、憩い

芝生スロープ

- ・天端広場からデッキに向かう動線

天端広場

- ・サクラの下の日陰も含め芝生の上でくつろげる

水辺拠点と自然エリアとの接続

水草園との接続部

- ・園路舗装や土工で処理し、広場空間と自然的な水草園との接続部を馴染ませる

親水スロープ

- ・パラカヌー、その他の船等が水面へアプローチできるスロープを設ける

階段

- ・象徴的な風車と最短で結ぶ階段を設ける
- ・デッキ広場に繋げ、風車とともに象徴性を高める